

令和3年度 新潟市農業活性化研究センター試験成績書

研究課題	秋冬期における一、二年生草花の展示栽培（モルセラ）
背景・ねらい	新潟市では晩秋から早春にかけて出荷できる切花品目が少ないため、秋冬期における無加温ハウスで栽培が可能な品目・作型等を検討し、切花出荷期の拡大を図る。
担当者	渡辺 智之, 山口 次郎, 今井 万葉, 渡邊 一彦
研究期間	2021～（1年目）

1 目的

秋冬期に無加温ハウスで栽培が可能であり、市場での需要が高い品目を展示栽培し、当該期に球根以外で種苗費が安く換金可能な草花類（秋播き二年草）の新品目導入のための資料とすることを目的とする。

2 方法

(1) 供試品種：モルセラ ベルズオブアイルランド (図1) <フクカエン>

(2) 試験区の構成・規模  
32株（反復なし）

(3) 耕種概要

- ア 試験圃場：新潟市南区（新潟市農業活性化研究センター内鉄骨ハウス）
- イ 播種：8月5日
- ウ 育苗：50%遮光
- エ 定植：8月19日
- オ 栽植様式：畝幅80cm, 条間15cm, 株間15cm, 4条植え（33,333株/10a）
- カ 施肥：基肥（kg/10a）N-P<sub>2</sub>O<sub>5</sub>-K<sub>2</sub>O= 15-15-15  
追肥 生育の状況を見ながら適宜施用。
- キ 電照：定植直後より日長延長（日没後～PM10:00）
- ク 保温：11月8日から保温開始（二重カーテンにて）
- ケ 摘芯：なし

(4) 調査項目

採花日, 採花本数, 切花長, 莖径, 節数, 切花重, 花穂長, 側枝数

3 結果の概要

- (1) 播種後定植まで50%遮光下で管理を行った。発芽は良好であったが、徒長苗となったため（図2）、深めに定植した。
- (2) 生育は良好であったが、抽苔すると側枝が繁茂し採花の際に作業効率が低下した（図3）。
- (3) 平均採花日は11月7日となったが、モルセラは無限花序であり、がく片が上段まで発達した後は採花適期が長く続くため、作業の都合に合わせてほ場での出荷調整が可能と考えられる（表1）。
- (4) 切花長は135.6cmとなり、その他の形質も出荷が可能な品質を確保できた（表1）。

4 まとめ

本試験では、本来秋播きで春咲きのモルセラを夏播き秋冬咲きの作型で栽培した。

厳暑期の播種・定植栽培であるため、育苗時の遮光、定植後のミスト散布などの処理を行った。

生育は良好で、出荷可能なものが採花できた。

在圃性が良く、ある程度生産者の都合に合わせた採花が可能であるが、出荷調整作業としてがく片部の葉を取り除く作業や側枝の整理などが必要となる。葉や側枝の有無は消費者の好みがかかると思われるので、市場や生花店との協議で出荷時の姿を再考することも一案と思われる。

本試験では株間15cmで定植を行ったが、側枝が繁茂して作業性が悪かったため、より密植にする必要があると考えられる。また、摘心の有無や脇芽かきの有無が採花時期や形質に与える影響についても調査を行いたい。



図1 ベルズオブアイルランド



図2 徒長した苗の様子



図3 切花写真

表1 切花結果

採花日		採花率	切花長 (cm±S.D.)	花穂長 (cm±S.D.)
平均	開始日			
11/7	11/4	100.0%	96.7 ±9.4	134.0 ±71.1

  

茎径 (mm±S.D.)	節数 (節±S.D.)	切花重 (g±S.D.)	側枝数 (本±S.D.)
7.2 ±0.6	43.6 ±3.8	188.9 ±61.6	6.0 ±1.6